

要求-設計間のトレーサビリティを考慮した 提案時方式設計法

(株)NTTデータ

松永振一郎 (matsunagasn@nttdata.co.jp)

設計における問題点

1. 要求設計間のトレーサビリティが明確に確保できていない(設計理由が明確にされていない)
2. 基盤設計時間が短い
基盤系設計要件は最後に決まり、比較的早くに設計を求められる。(要求設計間の依存関係のミスマッチ)
3. 非機能要件の抽出、設計の難しさ

手法・ツールの提案による解決

1. 要求設計間の一貫性の確保: 達成目標と機能の対応を一意にする手法KAOSを利用する
2. 要求手戻りの削減: アクター間の意図を考慮してゴール分析を行う手法i*、要求の網羅性を向上する手法ARM*を利用する。
3. 品質駆動プロセス: 要求段階から非機能要件を考慮するため、リスク分析手法HaZop、設計段階の品質駆動設計手法ADD+ATAMを利用する。

提案段階におけるシステム設計

要求分析

アーキテクチャー設計

